

「賭けマージャン問題」は規律を問うものか、それとも利益供与を問うものか

国会でもすれ違いの討論に始終したこの問題。質問する方もされる方も、コロナ緊急事態宣言下においてここ数カ月間、渦中のなかにある高官がマージャンとはけしからぬ。いやこのくらい。と世間一般の常識と比較してその善悪を問うているように見える。

この高官が新聞記者宅で常習的にマージャンをしていたということは問題になっただろうか。めんつのは新聞記者たちである。ただ、集まってマージャンをしたというところだけがやけにクローズアップされ、誰とマージャンしていたかについての深堀はされていない。

かつて「ピーナッツ」を受け取って辞職に追い込まれた総理大臣もいた。現ナマが直に動く立派な贈収賄であり、立件されれば有罪である。これに対して今回の事情はどうか。掛け金（レート）は低いかもしれないが、実際には現金が動き、もしもこの関係性の上に情報の供与が行われていたとしたら、立派な贈収賄が成立する。

世に接待マージャン、接待ゴルフなる言葉がある。何かを期待して利益を供与する。今回の「賭けマージャン問題」はこれらとどう違うのだろうか。難しいのは有罪を立件するのが検察である点である。当事者には自身の潔白を証明する義務は課されていない。

日本経済新聞 2020.5.28

賭けマージャン問題 「国民の信頼取り戻す」

林東京高検検事長が会見



就任の記者会見をする林氏（27日、東京・霞が関）

緊急事態宣言下に新聞記者らと賭けマージャンを行ったとして辞職した東京高検の黒川弘務前検事長（63）の後任に林眞琴氏（62）が就任し27日、記者会見を行った。林氏は「賭けマージャンは国民の信頼を揺るがす深刻な事態であり、改めておわびする」と述べ、「検察は国民の信頼を基盤としており、信頼を取り戻すことが新検事長の責務だ」と強調した。

就任は26日付。東京高検検事長は実質的に検察官した場合は林氏が後任に就くとの見方がある。

は「賭けマージャンは国民の信頼を揺るがす深刻な事態であり、改めておわびする」と述べ、「検察は国民の信頼を基盤としており、信頼を取り戻すことが新検事長の責務だ」と強調した。

現在の稲田伸夫検事総長（63）は18年7月に就任した。検事総長の定年は65歳だが、2年で交代するのが慣例。林氏は7月の誕生日で63歳の定年を迎え稲田氏がその前に退官した場合は林氏が後任に就くとの見方がある。

事総長に昇格するケースが多く、林氏も次期総長の有力候補となる。

林氏は1983年に検事官した黒川氏の同期。法務省勤務が長く、2017年には刑事局長として「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法の成立に尽力した。

18年1月から名古屋高検検事長を務めていた。

黒川氏訓告、自衛官は懲戒 賭けマージャン、処分不公平？ 時事通信 5/28(木)

緊急事態宣言下の賭けマージャンで辞職した黒川弘務前東京高検検事長の「訓告」の処分をめぐり、前例に照らして適切だったか疑問視する声が出ている。